

令和7年度第3回松戸市教育振興審議会 議事録

日 時 令和7年11月12日(水曜) 18時から19時30分まで
場 所 松戸市教育委員会 5階会議室
出席者 (委 員) 日根野委員、久保委員、局委員、西田委員、仲島委員、
小野委員、加藤委員
(事 務 局) 村上生涯学習部長、中坂学校教育部長、
三根生涯学習部審議監兼教育総務課長、町山学校教育部審議監、
秋田生涯学習部参事監兼教育政策研究課長、関根社会教育課長、
清水施設担当室長、渡辺文化財保存活用課長、金井戸定歴史館長、
染野博物館次長、川嶋図書館長、大場学校財務課長、
飯澤学校給食担当室長、南学務課長、芦田学校保健安全担当室長、
小川学習指導課長、山口特別支援教育担当室長、志村児童生徒課長、
久保田技監兼学校施設課長、菊地市立松戸高等学校事務長、
教育政策研究課職員2名
欠席者 千葉委員
傍 聴 3名

次 第

1 議事

(1) 「(仮)学びの松戸モデル(松戸市教育振興基本計画・第1期)」答申案について

2 連絡事項

(1) 次回の開催予定

開会

会 長	ただいまから、令和 7 年度第 3 回松戸市教育振興審議会を開会いたします。はじめに、事務局から会議の成立などについて報告をお願いします。
事務局	事務局から 4 点、ご報告いたします。 まず、会議の成立について、ご報告いたします。本日は、審議会委員 8 名中、7 名の出席をいただいておりますことから、松戸市教育振興審議会条例第 7 条第 2 項の規定により、会議が成立しますことを、ご報告いたします。 次に 2 点目、議事録の作成について、お知らせいたします。議事録の作成につきましては、ご発言者の氏名は記載せず「委員」とし、発言の内容は、文書化した際に不明瞭となる部分についてのみ事務局で修正させていただきますので、ご了承願います。議事録は、市のホームページ、行政資料センターで閲覧が可能となります。また、正確を期するため、会議は録音させていただきたいと思っておりますので、ご了承願います。 次に 3 点目、議事録署名委員について、本審議会の議事録は、その真正を証するため、委員の中から選出する議事録署名委員 2 名の方の署名をもって決定したいと考えます。今回は、局委員と仲島委員にお願いしたいと考えております。 最後に、会議の公開について、本審議会は、非公開にすべき事項が無いことが見込まれるため、「松戸市情報公開条例第 32 条」の規定により、「公開」を原則として開催し、傍聴人の受入れを認めていただきたいと考えます。傍聴希望者は、3 名でございます。
会 長	4 点の報告、ありがとうございます。 まず、議事録署名委員ですが、局委員と仲島委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。 (～ 異議なし ～) ご異議がないようですので、よろしくお願いいたします。 次に、会議の公開について、「公開」とし、傍聴人の受入れを認めたいと考えますが、よろしいでしょうか。 (～ 異議なし ～) ご異議がないようですので、そのようにさせていただきます。なお、これ以降に傍聴の申出がある場合は、席数の上限に達するまで、随時認めることといたしますので、ご了承願います。それでは、傍聴人の入室となりますので、しばらくお待ちください。 (～ 傍聴人、入室 ～)

1 議事

会 長	それでは、次第に沿って進行させていただきます。次第の「1 議事」の
-----	--

	「(1) (仮)学びの松戸モデル (松戸市教育振興基本計画・第1期) 答申案について」、事務局から説明を求めます。
事務局	資料1をご覧ください。資料1の「(仮)学びの松戸モデル (松戸市教育振興基本計画・第1期) 答申案」は、今回の審議会でご議論いただきたい「答申案」になります。 24 ページをご覧ください。めざす「子供の姿」について、ご説明いたします。第2章第1節「松戸の教育のめざす姿」として、「子供の姿」を新たに記載いたしました。めざす「子供の姿」は、子供ワークショップおよび市立小中学校に通う児童生徒を対象としたアンケートの結果を基に、子供たちの思いを中心にまとめたもので、「夢」「挑戦」「思いやり」の3つを掲げております。 めざす「子供の姿」の検討経過についてご説明いたします。資料2をご覧ください。資料2の「子供ワークショップの開催結果と『目指す子供の姿』の創出に向けて」は、教育振興基本計画に掲げる、めざす「子供の姿」の検討経過及び結果に関する資料になります。一部、前回の会議でご説明した内容と重複する部分もございますが、ご了承いただければと存じます。 1 ページをご覧ください。子供ワークショップは、「なりたい自分ってどんなかな？自分の好きをみつけよう！」をテーマとして、8月4日(月曜)に野菊野こども館で実施し、公募した20人の子供たちにご参加いただきました。ワークショップでは、まず日本ユニセフ協会による「子供の権利」に関する動画を視聴し、異なる背景や意見があることへの理解を深めたうえで、なりたい自分ややってみたいことを自由に考え、今後どのようなことに取り組みたいかを検討・発表していただきました。参加した子供たちからは、好きなこと、やってみたいこと、頑張りたいこと、将来の夢など、下段にありますように多様なワードを提示していただきまして、これらを事務局で整理した結果を、次のページにお示ししております。 2 ページをご覧ください。子供ワークショップを通じて子供たちが考えたワードを、事務局でカテゴリ分けいたしました。カテゴリとしては、①自然・宇宙・環境 ②動物・生き物 ③学び・知識・考えること ④スポーツ・体を動かすこと ⑤芸術・表現・創作 ⑥楽しい体験・遊び ⑦夢・将来の職業 ⑧人とのつながり・気持ち ⑨ 日常生活・身近なもの、という分類結果になりました。 3 ページをご覧ください。次に、大人の視点から見た「目指したい子供の姿」はどのような姿かを探りました。まず、教育委員会事務局の職員によるプロジェクトチームでワークショップ形式の検討を行ったところ、3 ページのような意見が挙げられました。 4 ページをご覧ください。庁内プロジェクトチームの結果を子供たちの意

見と照らし合わせたところ、概ね近い視点であることがわかりました。(3)をご覧ください。市民と保護者を対象とした「市民アンケート調査」でも「望ましい子供の姿」について伺い、その結果を子供たちの意見と比較したところ、こちらも市民の皆様、保護者の皆様と、子供たちの考え方には、共通する点が多いことがわかりました。

5 ページをご覧ください。これらの結果を踏まえ、子供たちの意見の背景や意図も含めて整理を行い、好奇心のある人、学ぶことが好きな人、じりつ（自立・自律）した人、挑戦を大事にする人、表現力のある人、夢や目標に向かって努力できる人、思いやりのある人、心も体も健やかな人、の8つに整理しました。

6 ページをご覧ください。先ほどの結果を基に、さらに多くの子供たちから意見を伺うため、市立の全小中学校で「未来の自分についてのアンケート」を実施いたしました。方法としましては、小学生は「選択肢を記載したポスターへのシール投票」、中学生は「インターネット回答フォームからの回答」で実施いたしました。結果は(2)のとおりでございまして、回答率は、小学生が96.9%、中学生が48.5%でした。

7 ページをご覧ください。事務局での集計作業と結果についてございます。集計に当たっては、小学校と中学生でアンケートの回答方法が異なり、投票率に差が生じたことから、在校生数に基づく補正を行い、全体の傾向を分析しました。その結果、「夢」「挑戦」「思いやり」の3つが特に多く挙げられたことから、これをめざす「子供の姿」として、**資料1**の24ページに記載のとおり、計画に掲げたいと考えております。

この3つの姿は、教育委員会が実施するすべての「施策」が、最終的にこの姿の実現につながるようにするためのよりどころとして計画に位置付けるものでございます。こちらにつきまして、委員の皆様から、「子供たちの成長の方向性として共感できるものか」「補うべき視点や表現があるか」「子供にも大人にも伝わりやすいか」などの観点から、ご意見やご助言を賜ればと存じます。

資料1の28ページをご覧ください。「施策」について、ご説明いたします。この計画では、**資料1**の28～30ページにありますように、9の目標、16の基本施策、49の施策という構成で整理しております。これらは、これからの5年間で本市の教育がどのような方向に進むのか、どのような取組を重点的に進めていくのかを示した、計画の中核となる部分でございます。

31ページをご覧ください。答申案の作成に当たり、事務局では特に、下段にございます各施策の「施策の目標」を中心に、各施策の表現や内容を精査し、調整を行いました。31ページ以降に記載しております各施策には、これまでの取組を踏まえつつ、今後さらに充実を図りたい分野や、新たに取

	り組む必要がある視点を盛り込んでおります。 委員の皆様には、これらの施策が、これからの 5 年間で実施していく内容として相応しい内容になっているかどうか、また、現場の感覚や市民の目線から見て、もっとわかりやすくした方がよい、こういう観点を加えるるとよい、専門的な表現で一般の方に伝わりづらい、といった視点でご意見やご助言を賜れればと存じます。 その他、答申案全体を通じてのご意見などもございましたら頂戴したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
会 長	前回まで入ってなかった各施策の目標が入ってきました。ただいまのご説明に対して、意見や質問、確認事項などあれば、挙手をお願いします。まず、冒頭に説明のあった資料 1 の 24 ページと資料 2 の子供の姿の 3 本柱について、議論をしていけたらと思います。
委 員	思いやりの部分、家族や友達、生き物などを大切にするという非常にわかりやすいのですが、家族や友達という割と限定されているような気がしました。子供たちが関わっている人は、もっと広い関係性があると思います。ですので、家族や友達だけに限定するのではなくて、例えば関わりのあるすべての人たちなど、もう少し広い視野を持った表現にするとよいのではないかと思います。
委 員	実は私も同じで、今、世の中は多様性がキーワードになっております。それから、家族や友達からいきなり生き物だと唐突感があります。資料 2 からすると、たくさんの人と仲良くなるという意見も結構あります。それから、外国籍の人であるとか、そういった観点もありますので、ここにもう工夫あっていいかなと思います。
事務局	もっと広く、対象を広げた形での表現を考えたいと思います。その中で、具体的な表現を追記していくのがよろしいのか、それとも世界観が広がるような表現がよろしいのか、ご助言をいただければと思います。
会 長	子供たちへのわかりやすさを優先するのか、それとも、今、世の中に求められているものを網羅して埋め込んでいくのかといったところで、変わってくると思います。委員の皆様、いかがでしょうか。
委 員	私もこの 3 つの姿を見ていた中で、あえて事務局の方で絞ったという、そういう視点があったのかなと思っていました。といいますのが、挑戦のところで、挑戦するというのは、私は子供たちに目標や目的をしっかりと持たせたうえで、子供たちの活動をさせてくださいということを職員にも言っております。まず、何か明確な目標がある、めざす姿が大切で、ここの挑戦のところに難しいと思うことということで、こちらは難しいことに取り組むことが挑戦だというような表現の仕方を、事務局の方でしていると私は思っております。皆さんにわかりやすく伝わるというようなニュアンスを

	持って、こういう表現になったのかなと思いますが、もしくは考えてこうしたというようなところがあるのであれば、お伺いしてみたいと思います。
事務局	難しいことということについては、普段取組んでいることよりも、ワンランク上のものに対して挑戦するというような表現をしたのですが、委員のご意見のように、目標に向かって進んでいく、その先のことも含めてというニュアンスを出したかったところがございまして、難しいという表現になっております。
会 長	3つの柱に事務局で絞って、タイトル的なところが夢・挑戦・思いやりになっていますが、まずこれが適当なものかを、委員の皆様は何いたいと思いますが、皆様いかがですか。 (～ 異議なし ～) 夢、挑戦、思いやり、小学校の低学年にもわかりやすい言葉だと思います。それで、コロンの後ろが「思い」だと思うので、ここは結構大事だなと思います。夢のところは、とてもわかりやすいと思います。夢のところは、「難しい」といったところの解説があって、思いはわかりました。あとは、後ろに出てきますけど、探究的な学びという言葉が次の学習指導要領でも深く入ってくるので、難しいということにチャレンジすることが挑戦なのか、自ら何か課題を見つけてというところに持っていくのかは、少し悩ましいところだなと思います。思いやりのところは、今の表現の範囲を広げていただけたらというようなところがあります。委員の皆様、いかがでしょうか。
委 員	私もこの後の説明のようなところが、少しずつ引っかかりがありました。夢のところは、何か漠然と思い描くだけでいいのかというところがありまして、もう少し具体的に示してもいいのかなと思いました。挑戦のところは、難しいと思うことと言われると、非常に困難なことをあえて挑戦しなきゃいけないのかと捉えてしまいかねないなと思いました。思いやりのところは、先ほどもありましたが生き物に唐突感があります。
委 員	私も、3本柱に関してはすごく共感を持っています。今の松戸の子供が意見を基にしたすごくいいワードだと思います。一方で、コロン以下のところに関しては、やはりもう少しわかりやすい、馴染むものにしたほうがよいのかなと思います。私は挑戦の部分を読んだとき、困難なことに取り組まなければならないように感じまして、諦めないでというところに引っかかっております。挑戦・努力・忍耐みたいなことがよく聞きますが、諦めないっていうのは忍耐というようなところになってくるかなと思ひまして、別の表現ができるのではないかと考えています。挑戦というのは、何かの始まりみたいなところで、よし一歩踏み出してみようっていう、もう少し気軽に捉えられる、子供のらしさが表現されるようなワードがよいかなと思ひていま

	す。
委 員	子供の姿の表現の仕方は、子供の視点で書くのか、大人の視点で書くのかで変わってくると思います。第一印象としては、表現が曖昧で、どこを求めているのかなというのがわかりづらいと感じました。
委 員	よくよく読んでみると、 <u>資料 2</u> の小中学生アンケートのときの解説の文言が使われているのではないかと思います。この解説でアンケートを取ったので、ここを引っ張ってきているのではないかと思うのですが、これはあくまでも解説であって、松戸の子供たちに、将来こういう姿になってほしいといった、要は子供像だと思うのですが、そういったところを少し揉んでいただければと思います。
委 員	<u>資料 2</u> の 5 ページを見ると、夢に向かって挑戦するっていうところに挑戦という記載があります。私個人の挑戦のイメージは新しいことに向かっていくとか、興味・関心をいろいろなところに持つであるとか、どちらかという好奇心の方に近いのかなというイメージがあります。難しいことというのは、恐らくその上にあるスポーツ・体を動かす、の挑戦・努力が一緒になったのかなと思います。挑戦をどちらで捉えるのかなというのが、少し気になりながらお話を伺っていました。
会 長	委員の方からは、子供の姿の 3 本の柱についてはわかりやすくよいのですが、説明、解説をする、理解をしていただく、その文言をもう一工夫していただけたらというまとめになるかと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	今いただきました様々ご意見を基に再考させていただいて、解説の方に向かいたいと思います。 もう一点ご助言を賜りたく、記載の順番をどのようにしたらよいかということで、現在は得票順で並んでいるわけではなく、3 つを並べたときに言いやすいと感じる順番で並べているのですが、得票順で並べた方がよいか、それとも他に何か並べ方があるかなどのご意見をいただけますでしょうか。
会 長	並べる順番に重要性の順位がついているわけではないですよ。県でも、求める教員像が 5 つあるわけですが、一番上が一番重要なのですかと聞かれるのですが、5 つは並列という説明をしています。そういう説明でもよいかと思いますが、この順番についてご意見など、委員の皆さんいかがですか。
委 員	松戸市の子供も含めて使いやすいというのが一番望ましいのかなと思いますので、並びはすごくしっくりくるなと思っております。
会 長	他の委員も順番はよろしいようですので、説明の文言については再考をよろしくお願いします。 続きまして、中身を見ていきたいと思います。特に施策の目標が入りまし

	たので、そこが相応しい内容となっているかを中心に見ていきたいと思います。委員の皆様が感じている部分があるかと思いますが、いかがでしょうか。
委 員	例えばですが、31 ページの施策 1 の目標のところに、調査の結果について記載がありますが、A と B がそもそも 2 択なのかとか、C とか D の選択肢があるのかとか、あとは合計して 100% を超えているってところで、これはどういう見方をすればよいのかイメージしづらいのですが、この質問に対する選択肢の一覧や、各何%だったのかというところもあるとイメージしやすいなと感じた次第です。
会 長	全国学力学習状況調査という国の調査で、経年でやっていますのでデータはあるはずなのですが、たしかに、あてはまる・どちらかといえばあてはまるの合計とか、あてはまるというのは一般の方にはわかりにくいと思います。事務局、いかがでしょうか。
事務局	この質問紙につきましては、A、B 以外にも C、D の選択肢がございます。当てはまる、どちらかといえば当てはまる、どちらかといえば当てはまらない、当てはまらないという選択肢になります。子供たちの好意的な回答を伸ばしていきたいという思いで目標を設定しました。全ての学校のデータもございますが、手元にはない状況です。
委 員	この見方としては、A の中に B の数値も入っているということですか。これはわかりにくいと思います。次の施策の目標も同じようになっています。
委 員	そうすると、あてはまる、どちらかといえばあてはまる、どちらかといえばあてはまらない、あてはまらないの 4 択で、その 4 択を合計すると 100% になるという理解でよろしいでしょうか。
事務局	そのとおりです。
委 員	全国学力学習状況調査なので、全国の平均が何%で、千葉県の平均が何%で、それよりも松戸市が上なのか下なのか。それで、高めるっていうのはあまりにも抽象的なので、例えば、5 年後には全国平均を上回るというような目標にした方が検証もしやすいですね。千葉県の教育振興基本計画では、先生がわかるまで教えてくれると思う児童生徒の割合で、千葉県の場合、児童は 86.6% で全国平均は 87.3%、全国より千葉県が少し低いです。だから、目標は全国平均以上を目指しますという、すごくわかりやすい目標になっていて、そうすると達成できたかできなかったかがわかるということもあるので、できればそういう指標にさせていただくと、私はよいのではないかと提案します。 ちなみに全国、県の平均と比べてどうかわかりますか。自分の考えをまとめる活動を行っているところの松戸の平均は、児童が 79% で、生徒が 76% ですね。そういう資料が目標の下にあると客観的かなと思います。

	他の部分に関しても、できればそういうデータを示せるところは示していただけるとよいと思います。
委 員	例えばですが、32～33 ページで、図が提示してあります。施策と図の関連性に気を付けながら見ていたのですが、なぜここにこの図があって、この統計が掲載されているのかというところが、少しわかりにくいかなと思います。図だけが浮かないようにする工夫というのがあると、よろしいのかなと感じました。
会 長	施策 1 の目標に対して卒業後の進路の図があるところについては、私も実は違和感がありました。何かご説明いただけますか。
事務局	進路の関係の数値をどこかに入れたいというふうに考えたところ、一番近いのがそこであったということで、今のところそちらに入れさせていただいております。 また、目標との関係でございますけれども、すべての目標に関して関係のある図が入ればいいんですが、なかなか入らないところもございますので、今のようになっているというところでございます。
委 員	せっかくある統計なので、ここで市民の皆さんに見ていただいて、内容を知っていただくっていうのはすごく大事なことかなと思うのですが、施策の後ろにある図は、この施策に関係する図なのではないかというようなところを感じながら読んでしまう方もいらっしゃると思います。何か大変難しい事情があるというのは今感じたのですが、どうにか上手く示すことができる方法はないものかなと感じました。
会 長	主な事業・取組を説明する資料として組まれているのだと思いますが、できるだけ目標を理解するための補助となるような図表が入ると理解がしやすいかなと思います。できる範囲で構わないので。そうするとよい計画になるかと思っておりますので、よろしくお願いします。
委 員	42 ページの施策 14、文化・社会教育と学校教育の連携を推進しますというところを読ませていただくと、博物館のことしか書いてありません。社会教育となると、地域の習い事であったりとか、こども会の活動であったりとか、教育委員会で共催されているようなワークショップであったりとか、いろいろなことが社会教育の中であると思いますが、その中で、文化と社会教育って広くとっている割には、博物館の記載のみで限定的ということに違和感があります。共催事業として鑑賞事業などをされていると思いますので、そういうことも含まれてもいいのではないだろうかと思いました。
事務局	ご指摘ありましたとおり、たしかに社会教育と言いながら、現状、博物館の記載のみということで、現状、社会教育課が行っております、広く生涯を通じた学びの中で該当するようなことを盛り込めないか、持ち帰って検討したいと思います。

委 員	34 ページ、施策 3 の言語活用科に関してですが、言語活用科は松戸市の教育の特色の大きな特色の一つだと思います。その割には、市民や保護者で全く知らないという人たちが非常に多くて、市民の皆さんにもわかるような説明の努力が必要なのかなと思いました。その取組みを少し入れることができないのかなと思いました。
委 員	それとあわせて、現状未把握という記載になっていますよね。5 年後にどうしたいのかといったところをスタートさせる上では、現状把握が大事だと思います。ですから、これをいつ把握して、進捗管理をしていくのか、その辺りを教えていただけたらと思います。
事務局	松戸市の教育課程特例校になっているこの言語活用科、理論的・批判的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、グローバル化する社会で活躍できる児童生徒の育成ということで、とても大事なもので、この学びがいろいろな教科に活用できると考えております。この認知度について、私もショックを受けているところです。この言語活用科が子供たちの学びに有用で、いろいろな教科の土台になっているところっていうことを、子供、保護者、教師に、今一度理解していただくために、広報の仕方についても考えていきたいと思っておりまして、今まさに、議論をしているところでございます。
会 長	これから現状把握のためのアンケートを進めるということですね。
事務局	今後、小中学校でアンケートを実施して把握することを考えております。また、小学校につきましては、言語活用科の研究指定校となっている学校で、言語活用科ワークブックの振り返りシートを通じて把握することを予定しております。
事務局	言語活用科の認知度を高めていくために、毎年「小学校で学ぼう～松戸市の学校教育～」というリーフレットを、新入生にお配りしており、その中で、「ことばの教育」ということで言語活用科の内容を載せております。また、教育施策方針をまとめたポスターを作成し、その中でも言語活用科についてお知らせする取り組みはしております。これからも松戸市の特色ある教育について、お伝えする工夫をしていきたいと考えております。
会 長	認知度を上げるのも大切ですが、言語活用科で学んだことを他の場面で活かしている割合を高めるということが目標なので、これを達成できたかを把握するためにアンケートを取るのでしょうかから、しっかりと把握していただいて、この割合を上げていくことを、ぜひお願いしたいと思います。
委 員	47 ページの施策 20、貧困家庭の子供の支援を充実させますという部分と、74 ページの施策 45、経済的理由によって学びを止めない支援を行いますという部分で、支援という意味では、割と関連性のあることが両方に書かれているなあという印象でした。施策 20 のところで出てきたものが、読んでいくと後ろの方にもまた出てきたみたいな印象がありました。どちらか片方

	にまとめた方がよいのではないかなという思いがいたしました。
事務局	47 ページの施策 20、ヤングケアラー、貧困家庭の子供の支援というところですが、こちらは相談対応の関係でございまして、74 ページの施策 45、経済的理由の方は、金銭的な援助になっております。施策 20 は、目標 4 の多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂の中で施策として位置付けております。施策 45 は、目標 8 の指導体制・教育環境の整備の中で施策として位置付けており、そのような整理の中でわかれているものです。
会 長	施策のグループが違うということですか。
事務局	施策 20 に関しましては、ヤングケアラーや貧困家庭への支援について記載しております。貧困家庭という言葉が引っかかっていらっしゃるのではないかなと思うのですが、施策 45 は、経済的に厳しい家庭への支援について記載しておりまして、中身として異なるものでございます。収入が低い家庭への支援を手厚くやっていくということが施策 45 で、様々な家庭の要因で教育を受けられないなど、そのようなことに手当を充実していくということが施策 20 です。内容としては全く別のものとご理解いただければと思います。
委 員	一般の方が読んでいっても恐らく引っかかる部分だと思うので、もう少しわかりやすい言い方があるといいなと思います。
会 長	では、ご検討いただくということで、よろしくお願いします。
委 員	38 ページの施策 8 の目標の箇所で、2 番目の全ての学校で人権に関する校内研修を実施しますというものがございます。これをパツと読んでみて、全学校で年に 1 回やればいいものなのか、現在は全ての学校で行われていないので実施している割合を少しでも増やそうじゃないかっというものなのか、研修は誰向けなのかなど、その辺りが少しわかりにくいので、補足する表現があるとよいのかなと思いました。
事務局	この研修については、教職員対象に年に 1 回行っております。今後、増やしていくかどうかは未定でございます。 主な事業・取組に、子供の人権に関する啓発を行いますという記載が 3 つ目にあります。子供の人権に関するリーフレットを作成し、小学校 5 年生を対象に配布するもので、あわせて学習も行い、人権に関する学びを育成しているというところでございます。
委 員	全学校で年 1 回の教員向けの校内研修のクオリティを維持しますという目標ということでよろしいでしょうか。
事務局	質を高める研修を行うということになります。
委 員	今より記載がわかりやすくなればよいなと思います。
委 員	71 ページの施策 41 についてお伺いしたいのですが、施策の方向性のところで、児童生徒の心理状態を把握し問題を深刻化する前にと、児童生徒一

	人一人の情報を多角的にといった記載があります。主な事業・取組のところでは、デジタルドリル等の運用より得られた教育データの活用というような記載があります。目標も教育データとなっています。この施策は学力的なデータのみなのか、それとも児童生徒の生活指導的なところも含めたデータなのか、どのような方向で考えていらっしゃるのかをお聞かせ願えればと思います。
事務局	主体的で対話的で深い学びの実現を目指して、個別最適な学び、協働的な学びの一体化の充実を狙っています。デジタルドリルを活用することで、個別最適な学びと、その情報を子供たち同士で情報共有することで、さらに深い学びになるということの学力面での利活用を検証していくということを考えております。
事務局	主な事業・取組の2つ目、満足度についてですが、松戸市ではWEBQUという学級経営サポートシステムを導入しております。その中で、学級の集団づくりや、個人の生活・やる気度を量る、子供たちがWeb上で回答するアンケートを実施しております。それによって、親和型の学級なのかとか、少し孤立しているのかとか、そのような部分もわかりますし、先生方が自分たちの肌感覚で評価している部分以外の、子供たちの気持ちを量ることができるアンケートを実施しているところです。
事務局	デジタルデータの集積につきましては、本市では検討中ございまして、今後の5年間の中で、どういうデータの蓄積ができるのか、どういう活用をしていくのかということも含めて検討を進めたいということで、まだ全体像が詳しくわかっていないわけではないということで、ご了承いただきたいと思います。
委員	わかりました。これからいろいろな情報を集めて、一本化していくという理解をいたしました。
委員	51ページの基本施策10、家庭教育力を継続して高めることで、地域の教育力を高めというところに、地域の社会教育の立場からすると少し引っかかりまして、家庭教育よりも地域教育が下のように受け取ったわけですね。今は共働きのご家庭も多いので、ご家庭でやっていく教育的な部分を、地域の活動の中で補っている部分というのも多くあると思います。なので、地域と家庭教育の連携みたいなところをもう少しフラットに考えていただけたら嬉しいなという思いがあります。
事務局	基本施策の方向性の二行目の書き方につきましては、決して上とか下とかという認識はございませんので、書き方について再考させていただきたいと思います。
委員	3点ほどありまして、答申案全体ですが、和暦と西暦の記載がわかれています。意図して使い分けているのかどうなのかということが気になって

	いて、そうでないのであれば、統一したほうがよろしいかと思います。 続いて 61 ページ、施策 30 の施策の目標の 2 つ目、人口一人当たり蔵書冊数なのですが、これは誤記ということでよろしいのでしょうか。というのは、59 ページの施策 29 の施策の目標と重複しておりまして、関連しているのかということが気になります。 続けて 76 ページ、施策 46、施策の目標のところでは地域別計画を 3 地域程度策定しますとありますが、この程度というのは、削ってもよろしいのではないのでしょうか。
事務局	1 点目の年の書き方ですが、基本は和暦を使い、その後ろに括弧書きで西暦を記載しております。それが基本なのですが、グラフにつきましては西暦を入れております。 次が、施策 29 と施策 30 の目標が重複している点ですが、これはあえて記載しているものでございまして誤記ではございません。 最後が、施策 46 の施策の目標の 3 地域程度ということですが、少し膨らみを持たせた形で記載しているというようなところでございます。
委員	40 ページの施策 10、施策の目標のいじめの重大事態の発生が起きないようにしますというのは、もう少し文言の工夫がないのかなと思います。主な事業・取組に、もちろんそこを目指すためのいろいろな施策がありますが、当たり前すぎてもう少しここが何か言葉の表現がないのかなと思います。いじめ重大事態は、残念ながら、必ずしも努力したからといって起きなくなることもないので、この目標の言葉は、目標として掲げるにしては少し大きいのかなと思ってしまいました。
事務局	目標につきましては、もう少し検討の余地があるかなと思いますが、なぜこのような目標に至ったかといいますと、いじめの認知数は、松戸市はかなり多い方とされていますが、ささいなことでもいじめとして認知をするということを学校に周知しております。その中で、重篤化しないようにすることが目標にあります。その理由は、重篤化してしまうと、再発防止をしたとしても、保護者と学校の関係が難しくなってしまいますので、できるだけしっかりと初期対応を組織的にしていきたいということで、いじめ事案支援チームなどのいろいろな手だてを講じているところです。いじめ重大事態は 0 件を目指しておりますので、そういう意味で目標としてさせていただきます。
委員	実は、私もここを次に質問、意見をと思っていましたが、いじめの重大事態は起きます。ですから、起きないようにするよりも、ゼロ目指しますということの方が目標としてはわかりやすいかもしれないのと、認知件数は松戸市も多いと思いますし、千葉県も全国でトップ 5 くらいに多いです。多いのは、悪いことではないと言われています。ですから、解消率を目標にす

	るとよいと思います。いじめを認知して、それを努力によって解消したということが大切だと思います。千葉県教育振興基本計画でも、いじめの認知件数に対する解消率を目標にしています。解消することはとてもいいことだと思いますので、意見としてお伝えしておきたいと思います。
委 員	今回、目標の部分を提示していただきましたが、計画策定後は進捗管理をしていかなければなりません。国や県の計画を見てくださいとわかるのですが、5年後の到達目標をある程度数値化しています。様々な調査をしたときに、その数字の改善が図ることができたことをもって、皆さんの努力が実ったとわかります。全ての数値化は無理だと思いますが、国や県で調査が行われているものや、現状未把握ですが調査をしていきますといったところに関しては、それを経年で数値を上げていきますとするとよいと思いますので、意見としてお伝えしておきます。
委 員	3 ページ、第 1 章第 6 節で、教育に影響のある社会状況の変化と取り組むべき課題というところがまとまっているかと思います。様々な社会状況の変化と課題の説明がされていると思うのですが、単に用語解説のようになってしまっているような箇所が、何ヶ所か見受けられます。例えば、5 ページの(5)で、社会の変化があって、最後にはこういうことが課題となっていますという文言で締めくくられているので、このような記載ができないものかなと感じました。
事務局	もう一度、内容を精査いたしまして、内容の説明と松戸市としての受け止め方というものを書けるようにいたします。 それから、先ほどの数値目標の件でございますが、全国平均など、そのようなはっきりとしている部分については数値目標を出せるかなとは思っていますが、なかなか数値という形で出ないものもございます。その辺りは改めて、検討をさせていただければと考えております。
委 員	用語解説は、答申案につけられるという理解でよろしいでしょうか。
事務局	用語解説につきましては、答申案には含めず、最終的な計画策定時につけたいと考えております。
会 長	その他ないようでしたら、本件については以上といたします。 本日の議論を踏まえて、会議閉会後に新たな意見等が出ましたら、また事務局の方までご連絡いただいて、その内容を次回の会議において共有するというような取り扱いにしたいと考えております。事務局の方で対応をよろしくお願いいたします。

2 連絡事項

会 長	続きまして、次第の「2 連絡事項」について、事務局から説明をお願いします。
-----	--

事務局	次回の開催予定について、ご説明いたします。次回の教育振興審議会でございますが、12月9日(火曜)に開催させていただきたいと考えております。本日ご説明させていただきました答申案について、本日ご審議いただきました内容を踏まえ、事務局で反映作業を行い、次回の会議でご説明させていただきます。委員の皆様には、日程調整をお願いさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 なお、令和7年度の松戸市教育振興審議会は、次回が最後となる予定でございます。次回は、本日頂戴しましたご意見等の反映作業をした答申案について改めてご議論いただき、答申書を決定させていただきたいと考えております。
会 長	皆様よろしくお願いいたします。次の会議でまた変更点が出ると大変になってしまいますので、意見がある場合には事務局にお伝えをして、次回すっきり終わるということできたいと思います。本日の会議は以上となりますが、委員の皆様から何かございますか。 ないようですので、本日の会議は以上で閉会いたします。お疲れ様でした。

この議事録の記載が真正であることを認め署名する。

松戸市教育振興審議会委員

松戸市教育振興審議会委員